

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月18日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・3歳児「秋の自然の探索」

<テーマ設定理由>

10月から散歩に出掛けている。近隣には原っぱや霊園、団地内の公園にどんぐりのみをつける樹々が生い茂っている。子ども達は散歩途中でどんぐりを見つけて集めて保育園での遊びに使う楽しんできた。どんぐりで遊ぶ中で子どもが気付いたことについて探究活動を行った。

2. 活動スケジュール

10月より散歩に出掛けている。
散歩スケジュール 10月23日、29日
11月5日、12日、13日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- どんぐりやまつぼっくりを入れるビニール袋
- 散歩用の救急用品や着替えなど
- 無線機
- 撮影機材 (iphone)

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- 9:30から体操とマラソンを行い、終わってから近隣の霊園に散歩に出かける。
- 霊園では、広場の方面まで行き、そこで探究活動を行う。
- 自由に散策しながら「秋」を探して歩く。
- どんぐりや松ぼっくり拾いを楽しむ。
- 落ち葉や枯葉を見立てて遊ぶ姿も見られた。
- 切り株を見つけて、気になるものが有ったようで友達と一緒に眺めている。
- 帰りは霊園の広い芝生でかけっこを行いながら帰ってきた。
- 霊園のなかを歩いていると紅葉している気を見つけた子どもが「葉っぱが赤い」など、気づいていう姿もあった。
- 広場でのどんぐりや松ぼっくり拾いでは、大きなどんぐりを見つけたり、あえて穴の開いているどんぐりを拾って「どんぐり虫を見つける」と張り切っている姿も見られた。(昨日の活動ではどんぐり虫を見つけて楽しんでいたのでつながっていることが分かった。)
- 園庭などで虫探しができなくなってきたので、虫がどうして姿を見せなくなってきたのかなどに気付けるように活動を通じて気づけるきっかけになった。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- 落ち葉やどんぐりを見つけると、「あった!」「こんなにとれたよ!」と声を上げて、両手いっぱい集めて見せています。
- 大きさや形の違う葉っぱを顔に当てたり、頭の上に乗せたりしながら、「お面みたい」「髪の毛みたい」などと想像をふくらませて遊んでいます。
- 落ち葉の多い場所では、しゃがみ込んでじっくりと地面を見つめ、「ここにもある」「小さいのを見つけた」と細かい変化に気づきながら夢中で探しています。
- 「いっしょに拾おう」「こっちにたくさんあるよ」と声を掛け合い、自然と小さなグループになって同じ場所で集めたり比べ合ったりしている子どももいました。
- 自分が見つけたものを友だちに差し出して「あげる」とやり取りを楽しみ、集めたものの数や大きさを見ながら「こっちのほうが大きいね」と会話が生まれていました。
- 手をつないで歩く姿や、一人が見つけた切り株・木の根元に「なにがあるの?」とほかの子が集まって来る姿から、互いの発見に引き寄せられながら活動が広がっていました。
- 保育者が袋を持つ子に「重たくなってきたね」「どんなどんぐりが入っている?」と声をかけると、子どもは袋の中を覗き込みながら「まるいの」「ピカピカの」と言葉で特徴を伝えようとしていました。
- 子どもが葉っぱを掲げて見せると、保育者は「どこで見つけたの?」「どんな色かな?」と問いかけ、それに応じて子どもは場所を指さしたり、「きいろとちやいろ」と色を表現していました。
- 子どもたちは、公園の中で秋の自然物を自分のペースで見つけ、手で触れたり集めたりしながら、全身を使って探索しています。友だちや保育者に見せて共有することで、「見つけた喜び」がことばや表情となって広がっています。



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

- どんぐりがたくさん落ちていることに気づいて拾うことを楽しんでいます。
- 落ち葉を夢中で集めたり比べたりするだけでなく、見つける→集める→保育士に見せるということも含めて楽しさを感じていて、見つけたことを保育士や友達と共有する喜びが見られます。
- 葉っぱを顔に当ててみたり、枝と葉を組み合わせる遊び姿から、形や色の面白さに気づいて想像力を働かせる表現活動に発展していると思います。
- 保育者が「これなあに?」と答えを教えるより、「どんな形かな?」「どれが一番お気に入り?」と問いかけることで、子どもが自分の言葉で考えを表現し始めると思います。
- 一緒に切り株を囲んだりする場面から、気になったことを友達と一緒に「なんだろう」と考えたり、友達が気付いたことに興味をもって自分も疑問に持ったりする協働性が育まれているように思いました。
- 発見や探索の中で、保育士の声かけを少し工夫するだけで、協同性や対話が豊かになるのではないかと思います。
- どんなどん袋がいっぱいになる様子から、集めたものがたくさんになっていく楽しさ、集める喜びが湧いていることが分かりました。
- 公園という環境では、切り株・木の根元・落ち葉の山など園庭では発見できない豊かな環境を散歩コースに組み込むことで、子どもが自然と立ち止まり観察すると思いました。
- 「秋を探す」というねらいが、自然物を通じた感覚遊びだけでなく、数や大小、色の違いなどに気づく体験になっています。
- 集めたものを持ち帰って保育室で遊びや製作に使うことで、園内の活動と屋外の経験が連続し、子どもの達成感や見通し(またやりたい・今度はこうしたい)が育つと思います。
- 散歩後に写真を見ながら子どもと一緒に振り返る場を作ると、自分の気づきを言葉で確かめたり、友だちの発見から興味が広がると思います。
- 子ども自身が「持って行く道具(袋・虫メガネなど)」や「どこを探検するか」を相談して決められるようにすることで、探究活動への主体性をさらに引き出せると思います。
- 離れすぎないように周囲を見守りつつ、必要なときにそっと近づいて手をつないだり、「こっちはどうかな?」と新しい探検スポットを示したりして、安心感の中で自由に探究できるよう支えました。